



あすもりサポーター通信



全道各地区の植樹祭報告



今年の春の植樹は全道11カ所で、4490本、サポーターさんを含め、995名の参加により、実施されました。例年になく、遅い春の訪れでしたが、各地区とも順調に植樹祭が行われました。

2013年度の全道の植樹状況

担当地区・植樹地	開催日	樹種	本数	参加人数
南空知・石狩B地区 栗山町	5月18日(土)	トドマツ	480本	114名
函館地区 知内町	5月19日(日)	5樹種(ミズナラなど)	280本	101名
釧路地区 白糠町	5月19日(日)	トドマツ	400本	94名
苫小牧地区 むかわ町	5月25日(土)	カラマツ	480本	71名
小樽・石狩A地区 真狩村「ごとう農園」	5月25日(土)	カラマツ	150本	45名
苫小牧地区 豊浦町	6月 1日(土)	トドマツ	400本	64名
旭川地区 東川町	6月 1日(土)	イタヤカエデ・ナナカマド	400本	61名
札幌地区 当別町「Fの森」	6月 1日(土)	21樹種(キハダなど)	1,000本	230名
札幌西地区 喜茂別町	6月 8日(土)	ハルニレ(くわんたい設置)	300本	86名
北見地区 美幌町	6月15日(土)	カラマツ	400本	75名
帯広地区 上士幌町	6月16日(日)	ダケカンバ	200本	54名

※上記11カ所のほか、北海道漁連さん主催の植樹にも参加しています。

各地区の報告

南空知・石狩B地区

●栗山町桜山●

初年度に植えたミズナラはシカなどの食害で全滅状態でしたので、2年目の今年はトドマツを植えました。成長がやや遅い樹種ですが、ゆっくり時間をかけて森づくりに取り組みます。昼食につくってくださる「豚汁」がとっても美味しかったです。参加者も増えてきたので、これからは楽しみです。



函館地区

●知内町湯の里●

植樹4年目です。道南に適したミズナラ・アオダモ・キタコブシ・ハリギリ・ホウノキの5種を毎年植えています。植樹計画を立てる段階から組合員さんに参加してもらい、樹種や本数なども一緒に決めていきます。植樹地に向かうバスの中でのクイズや解説も楽しいと毎年好評。植樹する時は全員がヘルメットをかぶって安全第一で作業しています。樹種看板の「ミズナラ」もわかりやすいですね。



あした コープ未来の森 2013年度 全道の植樹地



札幌地区 (当別町 道民の森植樹祭)



南空知・石狩B地区(栗山町)



北見地区(美幌町)



旭川地区(東川町)



小樽・石狩A地区(真狩村ごとう農園)



帯広地区(上士幌町)



札幌西地区 (喜茂別町)

植樹活動の様子は、コープさっぽろホームページの組合員活動ブログにも掲載されています。どうぞご覧ください。
<http://www.coop-sapporo.or.jp/contents/view/id/245>
 日々の活動日記「みんなのふるぐ」



函館地区(知内町)

助成団体行事の参加報告

「自然エネルギー実践講座2013」に、講師として参加しました。

6月5日、2013年度コープ未来の森づくり基金の高額助成を受けたNPO法人北海道エネルギー普及促進協会(NEPA)が主催する「自然エネルギー実践講座2013第1回北海道での自然エネルギー普及のために」が行われました。この講座は自然エネルギーの普及をめざして全9回開催する予定で、基金では木質バイオマスなど、道産材をエネルギー源として活用するための普及啓発事業に対して助成しています。今回は同NPO法人から依頼があり、あすもり基金の取り組み発表と、その後のパネルディスカッションに、講師として参加してきました。

当日は研究者や企業、学生、市民など多彩な顔ぶれの65名が参加していました。会場の札幌エルプラザ2Fの環境研修室は満席となり、自然エネルギーへの関心の高さがうかがえました。講師は3名で、最初に、北海道経済産業局自然エネルギー対策課長の多田好克さんが「再生可能エネルギーの役割と導入促進策について」と題して、再生可能エネルギー普及の現状と見通し、国の施策や補助金制度などについて説明しました。

次に、北海道大学北方圏フィールド科学センター教授の荒木肇さんが「北海道農業における自然エネルギー」について、実を収穫した後の茎や葉など、従来廃棄されていた農作物残渣を燃料化する実践事例や今後の可能性についてお話ししました。続いて、「北海道の森づくりの取り組みとバイオマス利用への期待」について、前濱が①コープ未来の森づくり基金、②北海道との森林づくり協定、③バイオマス利用の3点について発表しました。



また、自宅にペレットストーブを導入した体験から、「ペレットストーブを利用して良かった点は煮炊きができること、課題と思う点はペレットの入手方法で、宅配ドックで手軽に買えるようになれば嬉しい」と話しました。その後、「北海道の熱需要を自然エネルギーでどうまかなうか？」をテーマにしたパネルディスカッションがあり、活発な質疑応答と意見交換が行われました。NPO法人北海道エネルギー普及促進協会のホームページに、第1回～第4回の開催概要や報告などが掲載されています。どうぞ一読ください。

コープ未来の森づくり基金運営委員 前濱喜代美

参考：NPO法人北海道エネルギー普及促進協会(NEPA) <http://www.npo-nepa.jp/>



釧路地区

白糖町上庶路

植樹3年目になります。今年は土砂崩れがあったので、これまでの植樹地より手前のエリアを用意していただきました。庶路ダムから車で20分くらいの山奥にあり、全道にあるコープの森の中でも一番険しい植樹地といわれています。子どもたちもヘルメットをかぶって植樹しました。



苫小牧地区

植樹4年目です。豊浦町とむかわ町にある2ヶ所の植樹地で、森づくりを進めています。

豊浦町桜

参加されるみなさんは、植樹した苗木がどのように育っていくのか楽しみにしています。

むかわ町豊城

ゴルフ場開発のために伐採された場所に、カラマツを植えています。将来が楽しみです。



小樽・石狩A地区

真狩村「ごとう農園」

市町村と協定を結んだ「コープの森」ではなく、日頃から交流のある真狩村の「ごとう農園」さんの土地に植樹しています。毎年、カラマツ1,500本と、クリやヤマザクラを植えています。秋の育樹ではじゃがいもや枝豆の収穫体験ができるので、参加者も楽しみにしています。



旭川地区

東川町北五線の沢

大雪山系旭岳を望む場所に植樹して4年目になります。植樹の後はキトウシ森林公園に移動して、「NPO法人もりねっと北海道」さんに森の観察方法や遊びかたを教えてもらいました。写真は、みんなで輪になって木の枝葉の先端を見つけようと見上げているところです。イタヤカエデの枝葉が思っていた以上に広がっていて驚きました。



札幌西地区

喜茂別町尻別

植樹2年目になります。ハルニレ300本を植えました。シカ食害防除用の「くわんたい」を設置する作業は大変ですが、効果は実証済み。昨年のミズナラもしっかり育っています。植栽計画もしっかり決まっています。来年はハウノキ、4年目はエゾヤマザクラ、5年目はイタヤカエデとカラマツ300本、5年間で1haに1,500本の植樹を予定しています。



北見地区

美幌町豊富

3年目の植樹となります。網走・美幌方面と遠軽・北見方面から、それぞれバス1台で美幌町の植樹地に向かいました。開会式の後に雨が降ってきましたが、みなさん頑張って植樹しました。



帯広地区

上士幌町ナイトイ高原

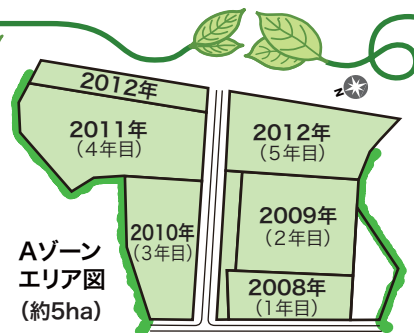
前日の雨を参加者の「思い」で吹き飛ばし、晴天のもとで植樹することができました。ここもシカの食害に悩まされています。2年前はおかあさんに抱っこされていた子が歩き回れるようになり、その上のお子さんは自分ひとりで植えることができるようになりました。



当別道民の森 神居尻地区Aゾーン 育樹報告

5月19日の当別道民の森神居尻地区Aゾーンの育樹会が残雪で中止になったため、6月30日に育樹作業を行いました。Aゾーンはコープ未来の森づくり基金のスタートと同じ2008年から2012年まで、5年間植樹をしてきたエリアです。

この地区は雪が多い場所なので、積雪でほとんどの苗木が折れてしまいます。春の育樹では、苗木の折れた部分に2~3本の割り箸（使用済）を添えて、紙テープ（マスキングテープ）をしっかりと巻いて幹同士が繋がるようにします。



折れた苗木の保定の様子



育樹作業

1年目のシラカンバ、2年目のミズナラはかなり成長していて、今後は雪に負けずに成長していけそうです。3年目、4年目の周辺部ではミズナラやヤマモミジがネズミやウサギの食害を受けていますが、ケヤマハンノキ、ハルニレ、シラカンバは良く育っています。昨秋の育樹会では、雪折れ防止のためにシラカンバなどの大きめの苗木にグラスファイバーのポールを沿わせてみましたが、止め方に工夫が必要なのことがわかりました。神居尻では春と秋の育樹作業が欠かせないものとなっています。

あすもり基金 助成団体紹介

(2012年度小額助成)

NPO法人 緑の探検隊

活動拠点 / 旭川市

1996年に「旭川市を緑あふれるまちにしよう」と市民有志によって設立されました。植樹用の苗木を育てて市民や町内会の希望に応じて提供したり、森や緑の楽しみ方を伝える森林浴イベントを開催するなど、「緑の視点からのまちづくり」に取り組んでいます。

2007年からは都市の緑の割合を表す「緑視率」に着目しました。一般的に緑豊かといわれる緑視率は25%ですが、旭川市内の平均は11%台でした。そこで緑視率アップなどを目標として、郊外に広がる森と市内の街路樹や公園の緑を結ぶ「旭川グリーンベルト構想」を立案しました。現在はこの構想に基づいて、緑について学び市民への普及啓発を行う「学習・見学交流事業」、緑視率や街路樹などの「調査事業」、苗畑管理や植樹を行う「緑化事業」を柱に活動を進めています。

昨年からは、西神楽地区にある民有林1haで里山づくりを始めました。全道各地に出かけて森づくりを学ぶとともに、植樹と林道整備を進めています。今後は植樹と育樹をしながら、周囲の人工放置林の所有者にも手入れを呼びかけて、一帯を子どもから大人までが楽しめる「レクリエーションの森」にすることを目指しています。



ホームページ <http://tannkentai.exblog.jp>

あすもり事務局から

2014助成団体の応募受付中です



あすもり基金では北海道の森づくり団体を応援する助成制度を設けています。

これまで、植育樹の実践や森のプランづくり、森をフィールドにした環境教育、住宅や玩具、木質バイオマスなど木材活用の普及啓発など、さまざまな団体や事業に助成してきました。

現在、2014年度に助成する団体と事業案件を募集中です。応募期間は8月1日から9月30日まで、10万円を団体に助成する小額助成と、100万円を上限に案件に助成する高額助成の2種類があります。

詳細は基金のホームページをご覧ください。

あすもりのドングリマークを真ん中に入れたQRコードが出来ました。



携帯電話などのバーコードリーダーで撮影すると、あすもりのFacebookページを開くことができます。

<https://www.facebook.com/coop.asumori>

森の本

毎号1冊、森づくりに関するおすすめの本を紹介します。

ニンゲルの森

著者: 倉本 聡(くらもと そう)
画: 黒田 征太郎
発行元: 集英社



倉本さんの著書はいろいろありますが、「未来の子供たちへの童話」ということで10篇の挿話からなる本書を選びました。倉本さん初の童話作品です。

あとがきに書かれているように、森の奥深くに生きる「ニンゲル」はそっとしておくのがいいそうですが、北海道の自然と開発の歴史を振り返るとき、一つ一つのお話しが胸深くまでしみわたってきます。

「命の木」や「水滴」など、わかりやすく自然の循環を語ってくれています。ニンゲルの長(おさ)や大人が、若いニンゲルや子供たちに語っているように、「声」に出して読んでみてください。